へ13
3826
5
へ13
3826
6

へ 13
3826
5

門へ13
號3826
巻5

假名情談戀畦倉

三集上

畦倉の父某幸子驛ゆ飄泊して丁意穀屋某の恵を
うけ再び主家へ帰参の後自十四郎が若気の放蕩父の勘気ゆ東武へ
下りて復穀屋と便の話柄是譚の發端なり世に講談家も
是を演ぜんと筋の戯場のこまゝ脚色して既に三篇
稿成り扱十四郎の本傳まで此趣を書綴べ世に遊ぶる
長談に見物の待久しく思召さんと扱元僕も
ものせし原米其機と採毫の四編へうつるべ
き多年の目論見前と云る歌川へ道具の訛管の
間に彼の船上りの見初とう。摧現堂の闇討
の愁歎場も其編數を重ねて佳境ゆ
入るまんと作者の用心今ものくくの仕入の狂言
見せるものうん事と序の半丁へ演ずと爾云

狂言堂記

大福帳

幼名
五十松
東蓮倉
十四郎
けい和や
哥吉
後ゝ大津屋
女房
於滝
播ノ司之助久蓮
藝者
和歌吉

盲人孝子城富
太田越後守政一
指戸屋富右衛門
妻 阿茂登

賤女浅茅

浪人
畦倉十四郎

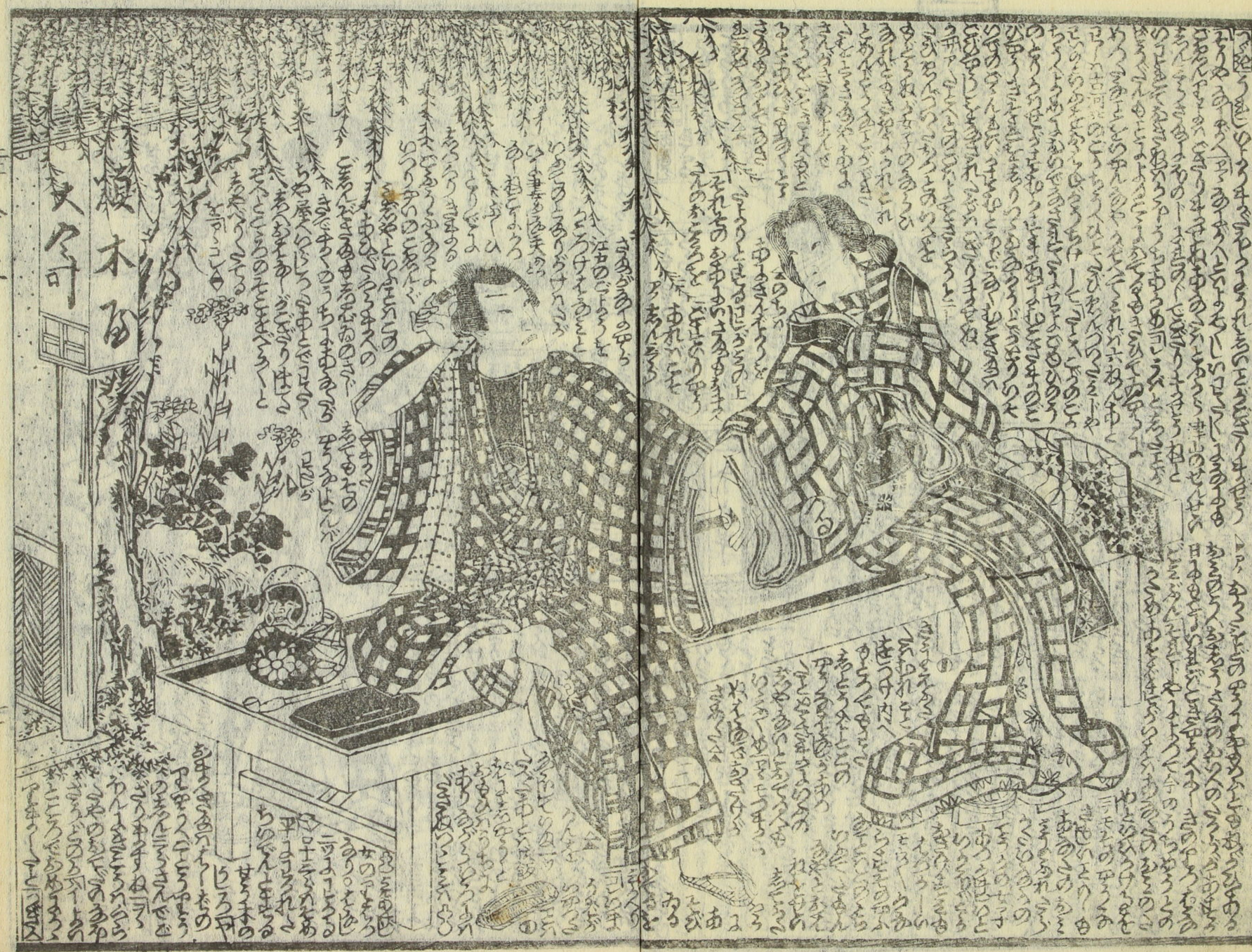
紋屋平兵衛娘於照

草加

植木屋

畦

湯
待合
二
三
今戸甲



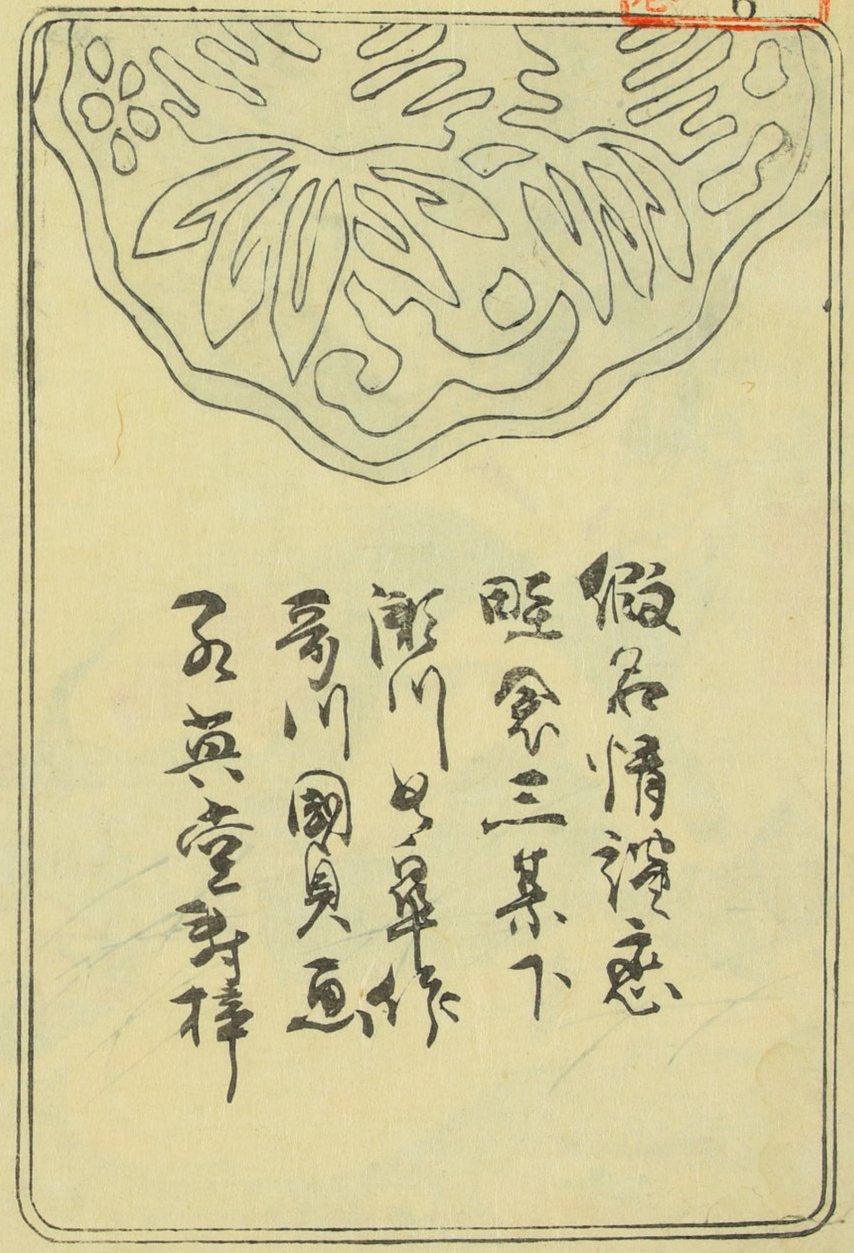
如皐作

國貞画

せんきうの妙薬
實母戒丸
室町源氏胡蝶巻
如皐作
梅堂國貞画
黄金一時
一件口碑
花情義侠の新作
松栄堂

三編下
へ13
3826
6

門へ13
號3826
巻6



假名情淫恵

暫金三某下

潮川史華作

哥川國貞画

五英堂刊行

梅蝶樓國貞画

瀬川如皐作

筆海四國閑書　柳亭種彦作　種彦国貞画

明鶴墨重西廻柳　三亭春馬合作　梅蝶樓国貞画

俄名情談惣毛倉　柳亭種彦作　国貞画

大晦日曙草紙　京山作　国貞画

童謡加々車　種彦作　国貞画

花封じ合戦　八島種彦作　国貞画

薄傳幻日記　水作　国貞画

八犬傳犬の双紙　柳亭種彦作　国貞画

地本双紙問屋　鶴屋吉蔵板